

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271500777		
法人名	有限会社 かづみ		
事業所名	グループホーム時の村11号館		
所在地	千葉県茂原市三ヶ谷1293-1		
自己評価作成日	令和6年2月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和6年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で安心して暮らして頂けるように、近くの関連施設と連携を図り、常に日頃から早期発見に努め、健康の維持を図っています。また、利用者様同士の交流を行い、家庭的な雰囲気を大切にしながら、ご本人の意向や願いを理解する事で、残存能力を活かし、より良い日常生活を送る事が出来るよう、緑豊かな自然に恵まれた環境で季節を感じて頂き、利用者様お一人お一人が、生き生きと、その人らしく生活して頂けるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念である「個人を尊重し安全で安心できる、楽しく美しい生活」を実現するため、利用者とのコミュニケーションを重視し、普段の様子を共有しながら穏やかな家庭的な生活を目指している。その意味からも、最近職員間ではグループラインを利用してお互いに建設的な意見を出し合い、より良い支援に結びつける試みがなされている。サービス担当者会議もコロナ対策の緩和に伴い、家族・管理者・ケアマネ・担当職員が対面で行われるようになり、より充実した支援へと繋げる努力が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人を尊重し安全で安心出来る、楽しく美しい生活の場を地域との連携の中で和の心をもって確立する事と言う法人理念を掲示しています。	現場では、法人理念である「個人を尊重し安全で安心できる、楽しく美しい生活」を実現するため、利用者とのコミュニケーションを重視している。職員は普段の様子を共有しながら、穏やかな家庭的な生活を目指した支援に努めている。また、日々の申し送りを徹底することで、支援の方法を継続させ、利用者に安心感を与えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナの影響で外出が困難にて地域との交流の場には参加出来ない状況でした。	コロナが5類に移行されたとはいえ、まだ外食は控えている。利用者と散歩がてら、近くの八坂神社にあるリサイクル回収場へとペットボトル、缶類、自然ごみを捨てに行っている。途中、花を植えている家があり、家人と挨拶を交わし、利用者も一緒に話に参加することもある。介護度が上がるとホームでの対応が難しくなることもあり、会社組織が変わる前の同じグループであった特養に移る方々もあり、近隣でもあり以前と変わらず交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナの影響で外出が困難にて地域との交流の場には参加出来ない状況でした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナの状況を見ながら、マスク使用と座席を少し離して短時間にて、全6回開催しました。	今年度より、運営推進会議はマスク着用を条件に面談形式に切り替えた。メンバーは市の高齢者支援課、みなみ地域包括支援センター、自治会長、民生委員、ケアマネ、職員、家族等となっている。出席できない家族には毎月請求書を送る際に資料を同封し、内容をお知らせするようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃よりサービス等の取り組みを相談、確認をしています。	行政の窓口は、高齢者支援課と連絡を取り合うようになっている。電話やファックスでのやり取りが多いが、介護保険の更新手続きや事故があった場合の報告に関する相談が主となっている。最近、市からのメールで傾聴ボランティアの案内があり、ホームでの検討材料ともなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が拘束について正しく理解しているか、抑制しないケアに取り組んでいるのか、3か月に1回全体会議にて研修会をおこなっている。	3か月に1回、全体会議の中で身体拘束に関する研修を行っている。研修時には本社より担当者が来訪し、「認知症の理解」ということで認知症の概要の説明があった。日常気を付けることとして「ちょっと待って」といったスピーチロックが多くなるため、相手に対し何故待ってもらおうのかを必ず説明を加え、職員の都合ですることのないよう注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修会へ参加し職員に教育するとともに資料等を配布し防止に努めています。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄		外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだ事を職員間で共有し、必要性や家族との対話の中で、それらを活用できるように支援しています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす際は、丁寧に口頭で説明しご理解頂いたうえで署名・捺印をして頂きお渡しするようにしています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望をお聞きし、運営に反映させるように努めています。	家族には日頃の様子を必ず伝えるようにしている。本人は寝たきりではないかと心配されたことがあり、体力の保存を図るため朝食・夕食後には1時間程度部屋で休息してもらっていることを説明すると安心されていた。本人から何かすることはないかという気持ちを読み取って、食器洗い、排泄用の古新聞を折り畳むこと、洗濯物を畳む等のお願いをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃から職員の意見や提案等聴く機会を設け運営に反映させています。	正式な会議よりも、日ごろの職員同士のコミュニケーションの中から意見が多い。最近では、職員間でグループラインを利用して建設的な意見も出てきている。最近の事例では、99歳の利用者でベッドからの立ち上がりがかなり難しくなっているのを見て、職員会議で介護ベッドへの切り替えの案が出た。本社に申請し、既存の介護ベッドに切り替えるための廃棄処理の検討を依頼した。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績等を把握し、勤務状況やスキルアップが持てるよう配慮しています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	申し送りや回覧等で研修報告をし、各自がスキルアップできるよう進めています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設間でのコミュニケーションを図り、サービスの質に反映させています。			

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し送り等からも含めて、日々の状況を観ながら、異変に気づき、本人の気持ちを受容し傾聴を心がけ信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作りを心がけ、ご家族の意見や要望・悩みに寄り添い信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が何を必要としているのかを見極めその気持ちに 応じられるよう、そしてサービスにつなげるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に尊厳を持って接し、その中で信頼関係を築き人生観等様々な会話ができるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や手紙(毎月の請求時に一緒に添える)で、日々の出来事や生活状況をお伝えし、本人と家族の関係が円滑にいくように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの状況によっては、ご本人の要望があればご家族と一緒に馴染みのある人に会ったり、馴染みのある場所や食事に出かけたり楽しんで頂いています。	昔馴染みの人との関係よりも、家族との関係での面会や外出になりがちとなっている。家族以外には、親戚の方が家族の面会時に一緒に来られたことがある。時々、家族が孫を連れてくることあり、前は孫の入学式の帰りに立ち寄り、ランドセルを背負った姿を見て喜んだ顔を見せていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの人格を尊重し、入居者同士がお互い助け合い支え合いながら、より良い関係を築いていくように努めています。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄		外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの連絡に応じ、家族の思い等を理解・共有し、関係性を継続できるように努めています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを意識し、利用者様一人ひとりの思いや、暮らし方を理解し、サービス担当者会議にて本人の意向や要望の把握に努めています。	適切なケアを提供するために本人から直接聞くことが出来れば良いが、少しずつではあるが意思表示出来る方は1名いる。入所後暫くは帰宅願望が続き、やがて周りの方とも馴染んで来られる場合が多いが、本音を聞き出すのはなかなか困難な場合が多い。一方ご家族の思いや意向については面談で意思表示をされるが、ご本人の思いと合致する事はあまりないようである。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談入所時等利用者様やご家族との関りの中で生活歴や好きな事等の情報、サマリー、基本情報を基に支援の把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態の把握、変化に気づき、日誌や申し送りノートで情報を共有し、現状の把握に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の情報や、サービス担当者会議において要望や意向を聴き、ケアプランに反映させ状況によりプランの変更を実施し、現状に即した介護計画を作成しています。	サービス担当者会議が、ご家族、管理者、ケアマネ、担当職員、必要に応じドクターも入り3ヶ月に1回開催される。ここでは現状のケアプラン及び今後の見直しについて議論が行なわれ、その結果は次の計画に反映される。今年度より対面で開催されるようになり、より充実したものになると共に、ご家族の要望や思いをよりリアルに感じることが出来、利用者本人の状況説明にも納得して頂けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを意識し、申し送りノートや日誌に記入し、職員間の情報の共有に努め、現場での実践や介護計画に活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響にて近隣にある関連施設に行き来し、利用者様同士の交流や、ボランティアの方とのふれあいは状況をみて支援していきます。			

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄		外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で出来ていない事もあるが地域の方による傾聴ボランティアや夏祭りの参加、また、消防署立会いによる避難訓練等地域の方との交流を深め支援していきたい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医であるライフサポートクリニック大網の他に、利用者の必要としている医療機関への受診に対応し、日々健康で暮らしていけるように支援し、主治医との連携を密にとり、適切な医療が受けられるよう努めています。	従来事業所で通院支援を行っていたが1年前の運営会社変更により、個人契約の訪問診療に切り替えた。ドクターは月2回(第2、第4月曜日)往診に來られ診察を受けることが出来る。事業所は、通院支援に人を割く必要が無く、家族は医療機関より報告を受けることが出来、お互いに便宜を図ることが出来ている。但し他科の診察については家族自身が通院支援を行なう必要がある。		診察の結果については、医療機関と共有出来る仕組みを作る必要が望まれる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃は介護士が利用者の体調や様子観察し、急変時は、主治医ライフサポートクリニックに報告しています。非常勤の看護師が週1回健康管理を行っています(コロナの影響にて看護師の訪問が電話で連絡、報告しています)			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリー等で入院先との情報の共有を図り、また、ご家族を通しての情報交換を行い、面会時においても状態を把握して退院に向けての支援をしています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に早い段階で、ご家族、主治医、代表、管理者と今後の方針を話し合い、家族の思いを受容し、看取りのケアプランを職員間で共有し、チームで支援に取り組んでいます。	昨年度1月、2月に看取りが行なわれた後、今年度については発生していない。重度化、急変時の対応については入所時より家族と確認をとってはいるものの、利用者本人が元気なうちはまだ先の事という感覚である。しかし、その場に直面すると意向が変わってくる事もあり、ドクターの指示と合わせて職員の対応も機転が必要となつたため、随時研修会も行なっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師または系列法人の看護師と常時連絡がとれるようにしています。急変や事故発生に備え、急変時対応の把握を職員間で確認し実践に努めています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様を安心安全に避難できるように、年2回避難訓練を行い、自治会での避難訓練はコロナの影響にて中止でしたが、地域との協力体制にも努めています。	年2回(6月・12月)に昼間、夜間を想定した災害訓練を行なっている。最近千葉県沖を震源地とした地震も多く、地震発生時の訓練も必要である。非常時に必要な食料や水の備蓄、自家発電装置などの対策はしっかりと実施されている。		行政からの指導では感染症対策も含めBCP(事業継続計画)の準備を要求されており、単独事業所としてではなく、法人、或いは地域として対策を検討していく動きが求められる。

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄		外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の中で、個人を尊重して接していくことを職員一人ひとりが自覚し、また相互で確認し合い、言葉かけや行動に注意しながら寄り添い、笑顔で安心できる対応に努めています。	介護の現場では、個人情報の取り扱いやプライバシーに対する配慮が欠かせないとは言うまでも無いが、記録上は管理が必要でも、特に共同生活を行なう施設においては、人前でそういった話をする事は避けなければならない。重要なのは職員一人ひとりが常にそういった意識を持って仕事をしているかどうかである。事業所内では時々そういった意識付けを全体会議の中で行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の何気ない対話の中から、利用者様の意向や希望をつかみ、好みや何をしたいのか、それを表現したり自己決定できるように支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性や人格を尊重し、その方にとって何が心地良いのかを見極め、実現できるように、その人のペースを大切にするように努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを意識している方は、季節に合った服装を選び楽しんで頂いています。2か月に1回訪問カットを行い身だしなみに努めています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のレベル低下が大きく、準備、片付け等は困難になっていますが、1人のみ自立度が高い利用者様は食器洗いや食器拭きを行っています。その他2人程テーブル拭きを手伝ってくれています。	食材は外部調達で、調理は職員が行なっているが利用者のADL低下もあり、食事を楽しむと言うより、黙々と食べている様子が伺える。できるだけ食事に集中出来る様に音楽を流し、テレビは消す等の対応を行なっている。2ヶ月に1回位のペースで、外から、お弁当や釜飯、うな重などを購入してきて提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取を確保し、主治医の指示により食事形態を変えたり、食事制限をされている方の食事量や水分量を把握し、利用者様全員の摂取量を記録し、食生活の支援に努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔ケア体操を行い、月2回(2回に分けて)歯科医の訪問があります。口腔内の環境を整える為に、毎食後の歯磨き。口腔ケアの実施を行っています。			

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄		外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の自立を目指し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表を確認しながら、声掛けや誘導をし、排泄の能力や維持の向上に努めています。	自立支援を優先し、排泄記録によるトイレ誘導も無理に勧めると嫌がられる事もあり、様子を見ながら、基本は自力で行なっていただくようにしている。認知の進行によりなかなか改善されない方もあり、オムツの使用は減少傾向にあるが、全体的には現状維持か若干低下気味ではある。夜間は夜勤専属職員2名と 正職員1名 にてお願いしており、定時での巡回で、排泄の確認を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、毎日レクで体操を行い、状況によってはトイレ時に腹部マッサージを行います。水分補給、食事時の牛乳やヨーグルト、ヤクルトなど飲んで頂き、腸の刺激をするようにしています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔を保ち、リラクスの時間として入浴を楽しんで頂き、利用者様の状態に応じて湯船に入り、安全が保たれるよう支援しています。	週2回の入浴をお勧めしており、入浴支援を行なう職員の都合で、午前、午後になる場合もある。利用者は女性ばかりなので、女性職員の介助で特に抵抗は無く、職員は1対1のコミュニケーションが取れる時間を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や日中の過ごし方、睡眠のパターンを把握し安心して気持ちよく眠れるように支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容を把握理解し、確実な服薬の確認をし、その後の症状の変化があれば、主治医に報告し確認に努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活面では、洗濯物をたたんだり、食器洗い、モップ掛けなどやりがいを持って行っています。個々のお好きな事を考慮し、合唱、塗り絵、折り紙、パズル、ボール転がし等の支援を行っています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今後のコロナの状況において外出、面会は中止する事もあると思いますが、現在は中止とはしておらず、マスク着用し2.3名までの面会をご家族にはお願いしております。	面会の解除と共に外出についても実施していく予定ではあるが、外食についてはまだ怖い感じがありなかなか実施に踏み切れない。近所の公園辺りに散歩程度の外出は行なっているが、 車が1台のみで、乗車する人数が限られている為、 法人から借用してくる必要がある。現在計画中であり、来期は徐々に頻度を増やしていく予定である。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄		外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望があれば、状況に応じて支援できるように努めています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があれば、状況に応じて支援できるように努めています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の表示はわかりやすくしてあり、リビングは心地の良い明るさで、季節の花や飾りを飾り、居心地の良い場所となるよう工夫しています。	日中、殆どの時間利用しているリビングでは、主に季節感をどう演出するかと言うことに気を遣っている。特にコロナ禍では長い間外出も出来ず、日付はあまり気にせずとも、季節だけはしっかりと感じて頂く為に、飾りものを工夫している。又、利用者の方々がお気に入りの童謡や昔の歌を流したり、テレビを見ながらみんなで体操を行ったりして体力の維持に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファがあり、独りでも、利用者様同士でも落ち着いて過ごせる様に空間を確保しています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染みのタンスや家族の写真、置物、好きな絵柄のカレンダー等本人の意向や家族と相談しながら居心地良く過ごせるように工夫しています。畳の居室もあり、生活歴に合わせた支援をしています。	居室担当職員は、お部屋の環境維持、清掃、利用者の身の回りのお世話などを行っているが、利用者皆さんは馴染みのものを持ち込まれていて、担当職員は家族などとも相談しながら、御心地の良い環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー、広い廊下、段差のない床と安全な環境づくりをしています。居室の入り口に名札、室内にはカレンダーや時計があり、わかる事を工夫し、安全で自立した生活が送れる様努めています。			